

令和5年度 県立水戸第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	○真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開する学校 ○自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとにも主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校 ○至誠一貫・堅忍力行の校是の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 令和4年度の重点項目に関する10の重点目標の達成状況は、すべてBであり、総括的には目標を達成できたといえる。令和5年度入学者選抜における本校の志願者数は289名であり、地域の期待の表れとらえている。 科学の甲子園ジュニア茨城県大会には2チーム出場し、うち1チームは県代表として全国大会に出場するなど、各方面で活躍することができた。 特別活動(学校行事・学級活動・委員会活動・体験型部活動など)については徐々に中高の連携が取れるようになってきており、附属中学生徒会も発足した。様々な活動を通して生徒に自覚が生まれてきており、今後につなげていきたい。 【課題】 特別活動や授業等において、教員、生徒ともに中学と高校の交流を図り、より充実した教育活動の実践を推進するとともに、6年間を見据えて切れ目のない指導体制を構築していくために、より具体的な方策を検討していく。 くわえて、高校進学後をにらみ、成績下位者への対応について検討していく。	教育課程・学習支援の改善・充実(中高連携・教科横断での授業改善等)	① 中高連携・教科横断で授業改善を図り、生徒の授業満足度(90%以上)を向上させる。	
		② 生徒全員がICT端末を有するBYOD環境の下、教育・学習活動におけるICTの有効活用を図る。	
		③ 科学の甲子園ジュニアをはじめ、他校生と切磋琢磨する「他流試合」への参加を奨励し、活躍を支援する。	
	進路支援の改善・充実(キャリア教育の推進等)	④ キャリア教育を推進して進路意識を高揚させるとともに、高校と連携し難関大学や医学部医学科をはじめ生徒の第一志望実現を支援する。	
	中高・学年の枠を超えた活動の推進(「+4学年活動」等)	⑤ 附属中学校の完成を踏まえ、+4学年活動など中高連携での活動や特別活動の改善・充実を図るとともに、体験型部活動を推進する。	
	健康・安全の確保と法令遵守の徹底(相談環境の整備等)	⑥ 最後までやり抜く力の育成や教育相談環境の整備を図るなど、生徒の心身の健康・安全を確保する。	
		⑦ 業務改善を進め、職員の心身の健康・安全を確保するとともに、法令遵守を徹底し、違反件数ゼロを目指す。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		論理的に自分の考えを表現する力を育む生徒を育てる。	○授業の振り返りや解説を通して、適宜添削指導を実施し、文章読解力と表現力の養成を図る。 ○共有七箇条などの観点や文型を活用し、考えを整理しやすくする。			
		基礎学力の定着を図り、段階的に全国学力学習状況調査に対応できる基礎学力の養成を図る。	○授業方法を工夫改善し、指導方法に対する研究を深めていく。 ○導入での漢字や語彙指導、中間の教科書主体の学習、終末の振り返りや問題演習と、60分間を3つのパートに分け、見通しを持たせた学習を行う。 ○小テストや暗唱等によって基礎学力の定着を図る。 ○新学習指導要領に対応できる基礎学力を培う学習指導の在り方について検討を進める。 ○希望者に向け、放課後補講やテスト解説を行う。 ○辞書や副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。			
		中高一貫教育校の特色を生かした授業を展開できるような教育課程の工夫改善を行う。	○実生活に結びついた必然的な課題の設定や目指す身に付けたい力の提示を毎単元心がけると同時に、グループでの話し合いの学習時間を充実させる。 ○高校教員の授業参観や高校入学までに育成すべき力や実態、教科書などの情報共有をすることで、授業の工夫改善を図る。			
社会	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		綿密な教材研究や授業改善を図るとともに、高等学校地理歴史科および公民科への円滑な接続を図るための確かな学力を養成する。	○教員相互間での研修により専門性を高め、生徒の知的好奇心を喚起する授業の実施を目指す。 ○基礎・基本の学力定着を図るとともに、自ら思考する能力、資料を分析する能力、課題に取り組んでいく姿勢等を身につけさせる。 ○標準単位数を超えた授業時数を生かして、学習した内容を踏まえたプレゼンテーション発表などを実施することで、生徒が多面的・多角的に思考・判断し、表現できるようにする。			
		教科研修の充実によって、教員の授業力の向上をはかるとともに、新学習指導要領、中高一貫教育、評価方法の研究を進める。	○ICT機器やソフトウェアの活用方法に対する研究を継続的に実施していく。 ○学習指導要領、中高一貫教育に対する研究を継続的に実施していく。 ○生徒の学習活動・能力を的確に評価する方法の研究を実施していく。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
数学	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		主体的に数学に取り組む態度を育成し、知識・技能の定着を図る。	○予習復習を励行し、教科書内容や基礎力の定着を図る。 ○課題や宿題について、タブレットを活用して課題の取組状況や習熟度の共有を図り、自発的に取り組む意識づけを図る。 ○担当者間の連携を密にし、日常生活に結びつく教材の精選と授業内容の充実に図るとともに、対話を通した授業で多様な見方・考え方を共有するなどして、数学に対する生徒の興味・関心を高める。			
		数学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう授業展開を工夫し、進路実現のための学力向上を図る。	○学力調査や大学入試の傾向に合わせて、単元テスト・実力試験の問題精選を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力を付ける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることを通して、新課程による大学入試に対応できるような説明する力を付ける。			
理科	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		知的好奇心を育て、科学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象について探究し、科学的な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように、演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○デジタル教科書や、デジタル図説を駆使して授業展開をするなど、デジタル教材を活用して、知識の習得と整理がしやすくなるようにする。 ○担当者の専門性を生かした授業展開を行うことで、生徒に興味・関心を持たせられるようにする。			
		確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○単元テスト・実力試験の問題の精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、相手に説明する力をつける。			
		中高一貫教育の理科教育の在り方、評価方法、新学習指導要領の研究を進める。	○新学習指導要領に対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方について検討を進めていく。 ○校内試験や実験レポート、毎時間の学習の振り返りなどの評価への生かし方についての研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
音楽	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
	音楽	主体的に音楽に触れることで芸術に対する感性に気づき高める意識・態度を育てる。	○多様なジャンルの音楽や音素材に触れる機会を増やし豊かな感受性と表現する力を育む。 ○主体的に音楽に関わる態度を育て、音楽をはじめとするさまざまな芸術に対する関心・意欲を高める。			
		音楽を表現する様々な方法に気づき、自分の感性を活かした表現をめざす。	○歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野を偏りなく指導し、それぞれのつながりを感じながら表現する態度を育てる。 ○発表の場を設けることで他者の表現なども参考にしながら個性豊かな表現を工夫する意欲を高める。			
		音楽を理解しよりよい表現につなげるための基礎的な知識を得る。	○音楽の諸要素(形式・構成・音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱)について学び理解を深めることでさらに豊かな表現をめざす。 ○基本的な唱法・奏法・創作の知識を身に付け、豊かな音楽表現をめざす。			
美術	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
	美術	鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○生徒の興味、関心を持たせるため、より多くの作品に接する機会を増やし、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○様々な作風・ジャンルの作品を取り上げ鑑賞させる事により芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。			
		自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間をできるだけ確保するとともに、その内容を精選し、段階的に工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。 ○美術館鑑賞を計画し、本物を鑑賞する。			
		新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの実演、指導ができるよう努める。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		自己の体力を把握させるとともに、健康や運動に関する意識を高める。	○昨年の体力テストの結果を反映し強化が必要な分野(柔軟性・瞬発力)について、体育授業のW-UPで、毎時、ストレッチや補強運動を実践する。 ○長距離走への積極的な取り組みにより、基礎体力の向上を図る。 ○投動作の強化向上を図るため、教具を工夫し、練習の機会を設ける。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。			
		授業時のケガの防止に努める。	○運動時の安全に配慮した場の設定等を計画的に行いながら、ケガ防止のための正しい動きを身に付けさせる。 ○授業に臨むに当たり、健康観察、コロナ対策、熱中症対策、交通安全に努めると同時に、生徒にも健康安全に対する自意識の向上を喚起する。			
		「保健」をとおして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」を通じて、思春期における生徒の健全な成長を目指し、外部講師等の活用を図った授業を展開する。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題と社会的な課題における自身の役割を理解させる。 ○ICTの導入及び積極的活用を図る。			
技術・家庭	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を目指す。	○小テストを定期的に行い、基礎的な知識の定着を図る。 ○必要用具が1人1つ行き渡るよう整理し、全員が十分な実践的学習時間の確保を目指すことで、基本的な技能の習得を図る。			
		衛生面や安全面に留意し、体験的な活動から実践的な力の定着を図る。	○実習室や使用する用具の管理を徹底し、安全に製作や実習、実験などの活動ができるようにする。 ○状況に応じ安全を考慮した上で、より多くの体験的な活動ができるように努める。			
		生活や社会の中から問題を見いだし、よりよい生活へ改善しようとする意識の向上を目指す。	○グループ活動やペアワークを取り入れ、学んだことを生活の中で活用できるように努める。 ○自らが日々の生活の中で、主体的に課題発見と改善策考案を模索し続けられるように、ICT活用だけでなく、より体験的な学習の場の提供を目指す。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
外国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
	外国語	実践的な活動を通して、場面を想定したコミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を目指す。	○基本的な表現の理解を深めるために、授業時間内に場面を想定した活動の時間を十分に確保することで、知識の定着を図る。 ○授業内容ごとに自作プリントを作成し、基礎基本の定着を図り、言語活動における表現力の向上を図る。			
		日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を目指す。	○ICT機器を活用して、自己の考えや意見を表現する機会を単元のまとめとして設定することで、思考力や判断力の育成を図る。 ○GoogleスライドやJamboard、Flipgridなどを活用しプレゼンテーションの機会を設けて、表現力の育成を図る。 ○「話すこと<やりとり>」を意識した授業展開の研修を進める。			
		自らの学習を調整する力の育成を通して、主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。	○学習サイトを用いて、自ら学習内容の定着を図る場を設定し、目標を明確にすることで主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ○授業で学習した内容の確実な定着と自らの学習を調整する力を育成するために、振り返りの時間を毎時間確保し、次時の学習への意欲の向上を図る。			
	教務	教育課程の工夫改善をする。	○授業時間増を生かした教育課程を作成し、少人数指導やTTを行うことで、学習内容について発展的なものまで扱えるように努める。また、今年度の教育課程を変更した効果について検証する。			
		授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、授業時数の均一化をはかる。また、夏季課外を円滑に実施する。			
		授業内容のさらなる充実を図るとともに、併せてICTの活用を推進する。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、ICT機器(タブレット及び電子黒板等)を利用した授業展開を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		教育活動を公表する。	○学年と連携して、小学生対象の水戸一高附属中説明会、公開授業の実施により学校を公開する。また、情報部と連携して、ホームページを通して、地域住民等に広く水戸一高附属中の教育理念を周知する。			
		統合システムを円滑に運用する。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実 に努め、新たな伝統の創造を目指す。 ○高校との連携した行事においては、特別活動部が橋渡し役となり、双方に教育的な効果が 生まれるよう配慮する。 ○中学独自の行事においては、6年間を見据えた内容になるよう考慮した内容を目指す。			
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○高校と連携した「体験型部活動」の円滑な実施に努める。 ○体験活動を充実させ、選択肢が増えていくよう配慮する。高校との連携においても、双方に教 育的な効果が生まれるよう内容を精査していく。			
	学級活動においてキャリア・パスポートを活用する	○各学年の学級活動においてキャリア・パスポートを作成し、社会の中での自身の在り方を考え る。			
進路支援	生徒一人ひとりが深い自己理解に根ざした 高い進路目標を抱くことが出来るように、 キャリア教育を推進して進路意識を高揚さ せる	○進路講演会などの自己理解や進路意識を高めるプログラムを実施し、キャリア教育と進路指 導の両面で将来を見据えられる生徒の育成に向けて、指導の充実を図る。 ○高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な 学習を促進させる。			
	生徒の学習意欲を引き出し、興味関心や得 意分野を生かすことができるよう支援をして いくとともに、学習に対し不安感を抱く生 徒への学習支援も展開していく。	○学習に関する各種コンテストや検定等で、他校生と競い合う「他流試合」への参加を促進し、 また、全国の舞台で活躍できるように、高校と連携し特設講座等を設けるなどして、同じ目標を 持ったもの同士がお互いを高め合う場や機会を設定する。 ○生徒の学習に対するコンプレックスや苦手分野を克服出来るような手立てを講じた特設課外も 設定していく。			
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機 を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年及び高校と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努め る。保護者に対しては、生徒の現状に合わせた家庭でのかかわり方等の情報提供に努める。			
	6年間を通して見渡せるような進路指導の 流れの構築を進め、それらの情報・データ を職員間で共有できる環境を整備し、一層 の進路指導の充実を図る。	○県内外の附属中学校や中等教育学校の進路指導形態を調査・分析し、本校における高校接 続までの進路指導の流れを構築する。また、この分析したデータベースを活用して職員研修等 を実施し、指導に有効と思われる形態についても研究を進める。			
研究構想	「チャレンジ・プロジェクト」(プロジェクト「図南 ジュニア」ー21世紀型スキルを備えたリーダーの 育成ー)を充実させる。	○「心に火をつけるフォーラム」等の行事を通して、自分の在り方や生き方、進路について思考を繰り返 しで深めていく態度を育む。 ○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して、自ら課題を発見し、多様な視点から論理的に考察する 力や自らの考えを他者に伝える力を培う。 ○将来リーダーとして社会貢献できる人材の育成を目指す。			
	教員の授業力向上を図る。	○「新任者授業見学会」、「校内授業公開」による校内での実践研修および、「茨城大学附属学校等の教 育研究大会」等による校外での指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 ○「校内教員研修会」、「県外進学校視察」等を行い、中高一貫におけるキャリア形成を促す指導やHR経 営等の知識や技術を蓄積・継承する。			
	開かれた学校づくりを推進する。	○「+4交流」を中心とした中高連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○「学校公開」や「道徳公開授業」を行い、本校の教育活動や取組を広く周知する。			
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成 する。	○「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し、自らの将来像について考えを深めていく 態度を育む。 ○「道徳」を通して、道徳的判断力や道徳の実践意欲・態度を育む。 ○総合的な学習の時間や道徳などの授業において、中高合同授業を実施することで、異学年間交流を図 るとともに、生徒の多面的・多角的な思考力・判断力・表現力を養成する。 ○毎日の学習の振り返りやキャリア・パスポートなどを通して、主体的に学習に取り組む態度や自身のキャ リアを形成する力を育む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒支援	基本的生活習慣の確立を図る。	○教員が率先して挨拶を励行し、校内外で挨拶しあう態度が自然となるようにする。 ○総合的な学習の時間のテーマ「至誠学」での「まごころをもって役に立つ」姿を発揮し、地域等で進んで貢献・奉仕しようとする態度を育む。 ○水戸一高附属中生として誇りの持てる行動を問い、規範意識の高揚を図る。			
	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、連携を取り合い適切に支援する。	○教育活動全体を通して、思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高附属中生としての自覚と責任ある行動を支援する。 ○生徒の心の変化や悩みを把握するためにアンケートや面談の機会をより多く設け、生徒支援上の問題に対して予防的に対応できる体制を整える。 ○各学年・保健厚生部・養護教諭との連携を密に、生徒の状況を的確に把握し、生徒の心身の健全な育成を支援する。また、高校とも情報を共有し、多くの教員の目で生徒を見守る体制を整える。 ○インターネットやスマートフォン、タブレット等の適切な使用法を家庭と連携しながら繰り返し指導し、情報モラル意識の向上を支援する。			
	交通安全の意識を向上させる。	○生徒通学路の安全状況を把握・確認し、関係機関とも連携して生徒が安心・安全に通学できるよう対応する。 ○法規に従った安全な行動について繰り返し指導する。特に、自転車の乗り方については被害・加害両面についての注意を促し、自転車による交通事故ゼロを目指す。			
	いじめ問題に適切に対応する。	○生徒と共に歩む教員集団で生徒の看護や協働を徹底し、いじめの未然防止に努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見する手段の一つとして、毎月の学校生活アンケートを実施して生徒の状況を綿密に確認し、それに対して各部署や家庭との連携を図り、迅速かつ適切に対応する。 ○教職員対象の校内研修を実施し、いじめに対する意識を高める。			
情報	ICT機器の整備・管理・運用を適切に行う。	○GIGAスクール構想に基づき、引き続き校内におけるICT機器の再編・整備に努める。 ○ICT機器管理室の整備をさらに進め、適切な管理・運用ができるような制度設計をおこなう。 ○高校でのBYODへの移行を円滑に行う。			
	学校WeBページの充実を図る。	○特に、本校の特色ある教育活動についての情報発信を充実させる。 ○WeBページのレイアウトや項目等を見直し、見やすいページに改編する。			
	教育の情報化へ向けた支援活動を行う。	○教育の情報化をより一層推進するため、ハードウェア、ソフトウェアの両側面から先生方の支援を進める。 ○他分掌、学年との連携を強化し、情報部として可能な支援を引き続き推進する。 ○個人情報の管理やウィルス対策等の注意喚起・情報提供をおこなう。			
	効果的な学校評価アンケートを実施する。	○より効果的に、学校運営に生かせるアンケートにするため、質問項目を改善する。			
図書	図書館司書との連携を深め、自ら課題を発見し学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○司書との連携を深め、教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等をおこない、貸出利用に繋げる。 ○選書について、教科担当からも意見を多様な興味関心をもつ生徒にできるだけ扱い、中学生向け選書にも配慮をしてゆく。			
	読書に親しむ環境を整え、読書への啓発活動を行う。	○総合的な学習の時間での利用をはじめ生徒一人ひとりの学習で一層の図書利用が進むよう、図書室でのPOPや新刊紹介、講義室や廊下に新聞閲覧コーナーや特設図書を設置する。 ○おすすめの本を紹介する等のイベントを感染状況に留意しつつ開催する準備を進め、生徒どうしの読書体験の共有・啓発運動を行う。 ○図書委員会有志による川又書店の店頭選書、展示を実施する。 ○除籍本をもらい受けて、各学年に朝の読書用に配備する。			
	高校生の委員会と連携し、生徒委員会活動のさらなる活発化を目指す。	○毎日のカウンター当番等を活動の基盤としながら、生徒委員を主体的に運営できる生徒の育成をめざす。 ○感染拡大により、大きな活動やイベントができないときに備え、より小さな生徒単位で行える効果的な方法について検討、実施を進める。			
	機関誌を着実に発行し、本校の歩みを正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に行う。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健厚生	学習環境の整備に努める。	○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、各種感染症対策をおこなったうえで、衛生状態が保たれるように取り組みを行う。(教室等のゴミ箱を廊下に出し、ゾーニングを徹底するなど。) ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査、ダニの検査を実施する。 ○モップ交換や普通教室のカーテンのクリーニング、ワックスがけを行う。 ○施設・設備の安全点検を行い、環境の安全の確保を図る。 ○カウンセリング室の整備継続や感染症疑い生徒の待機場所確保を行う。 ○毎日の健康観察の実施による養護教諭との情報共有。保健調査や各種健康診断等の実施 ○緊急時の各種マニュアルの計画的な見直しと各種研修会等の実施。			
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会を捉え、それらをいかした保健指導を行う。 ○保健体育の学習や各教科、HR、行事等との関連をもたせた、事故・けが等の予防や各種感染症に対する予防を徹底するよう指導する。 ○各学年、生徒指導部、スクールカウンセラーとの連携を密にして、保健日誌の活用や情報交換、出身小学校との連携等を行うことで、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○健康に関する情報提供のための「保健だより」の毎月1回の発行。 ○災害時における避難訓練を中高合同で行い、校内の状況と避難経路を確認し、防災に対する意識を高めるよう指導する。引き渡しに関する、中高の基準等について確認し、非常時に備える。 ○中学職員の保健厚生部職員の連携と各種講習会や講演会の実施を積極的に行う。 ○栄養職員と連携し、衛生的で安全な給食指導の実施と食育の推進。 ○アレルギー対応委員会での共通理解や連携を密にし、食物アレルギー生徒の対応を万全に努める。			
1学年	基本的生活習慣の養成を目指す。	○元気な挨拶を中心とした、何事にも前向きに取り組む態度の育成を図る。 ○学校生活の中で自主的に時間を意識した行動をとり、授業時間や給食の時間の十分な確保を目指した態度の育成を図る。 ○道徳教育を中心として、学校教育全体を通して規範意識の向上を図る。			
	自主的な学習に取り組むと創意工夫のある授業等を通じて、ICTを活用した個別最適化学習を推進し確かな学力の養成を目指す。	○振り返りの時間を確保し、自分の学習についての記録を定期的に見直すことで、取り組むべき課題を明確にし、進んで自主学習に取り組む態度の育成を図る。 ○ICT教材を効果的に活用することで興味・関心の枠組みを広げ、自ら進んで学習内容を掘り下げる意欲を高め、自主的な学習に取り組む態度を育成する。			
	特別活動への積極的な参加を目と同時に、探究活動等を通じて＋4学年活動を充実させる。	○学校行事、委員会活動、体験型部活動等についてのオリエンテーションを充実させることで、＋4活動等を通し積極的に参加とコミュニケーション能力を磨くプレゼンテーションの実現を図る。 ○様々な行事や活動に対する参加の目的や趣旨を明確にすることで、何事にも挑戦しようとする態度を育成する。			
2学年	生徒個々の規範意識を高めるような支援による、自律的な基本的生活習慣の確立を図る。	○日常の挨拶の更なる定着と、場に応じた行動をとれるような支援を目指す。 ○環境整備・清掃活動の励行を促進する。 ○Chromebookの使い方を始め、SNSやICT機器との向き合い方を考え、身に着けられるように支援する。			
	自主学習に取り組む態度の育成と、ICTを活用した学習意欲の向上を目指す。	○振り返りの時間を活用して学習記録を定期的に見直すことを通して、客観的データをもとに課題を明確にし、意欲的な自主学習に取り組む態度を育成する。 ○ICT教材を効果的に活用することで興味・関心の枠組みを広げ、自ら進んで学習内容を掘り下げる意欲を高める。			
	特別活動への積極的な参加を促すとともに、様々な体験活動等を通じた学年活動を充実させる。	○学校行事、委員会活動、体験型部活動、＋4学年活動等への積極的な参加を促し、多学年とのコミュニケーションを通して自らの人間性を磨く機会を増やす。 ○語学研修や国内研修旅行を始め、総合的な学習の時間を中心に様々な体験活動を計画・実施することで、充実した学年活動の実現と、学びに向かう力・思考力・判断力・表現力の育成を図る。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
3学年	心身ともに健やかな成長を目指す。	○学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ○部活動への参加や校外での活動を推奨したり、体育の授業や日々の運動習慣の習得を意識した声かけをしたりする。			
	附属中のリーダーとしての活躍を目指す。	○一人一人が附属中学校の最高学年生としての意識を高める。 ○下級生とよいコミュニケーションをとり、リーダーとしての自覚を育む。 ○行事において、これまでの経験をもとに各自がリーダーとしての意識をもち、主体的に取り組むことで、下級生をリードしていく意識をもたせる。			
	夢に向けた挑戦に取り組む。	○様々な活動(アントレプレナーシップ・プロジェクト、ノウレッジ・プロジェクト、ボランティア・プロジェクト等)を支援して、夢に向けた挑戦を支援する。 ○一人一人の進路実現に向けて、具体的な将来像をもてるような進路支援を行う。 ○日々の振り返りの時間を活用して、目指すべき理想像に向けた取り組みへの支援を行う。			

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない